

第 9 回発表集会印象記

高岡市保健センター 熊谷 武夫

第 9 回富山県農村医学研究および健康管理活動発表集会は去る 2 月 15 日 13 時 35 分から厚生連高岡病院地域医療研修センターで開催されました。

昨年 3 月、豊田文一先生がお亡くなりになり、これに伴って富山県農村医学研究会の会長には越山先生が就任されました。

新たに常務理事として秋元さんが選任され、事務局も膳亀事務局長、大浦次長、中村さんの体制となりました。

さらに幹事会が設けられ、幹事としては越山会長、秋元常務理事、渡辺、石田、小川、寺中、竹部の各理事が選任されました。

新体制最初の集会は、会長の越山健二先生の御挨拶に始まり、今回も来賓として出席された厚生連の吉田会長が、病院事業や検診事業の要としての本研究会の発展を期待される旨をお話になった後、会員の発表に入りました。

まず高岡病院の豊田副院長先生が座長席につかれて、越山先生が「高齢化社会とコミュニティヘルス」と題して特別報告をなさいました。

先生は近年の高齢化社会への国の対応を先取りして、日本農村医学会が在宅ケアをはじめとして地域におけるケアシステムの構築の問題を取り上げてきていることをお話になりました。

長く上市厚生病院において地域医療に取り組んでこられた先生のお話は、高岡市総合福祉推進事業に係わっている私にとりましては、大変教訓に富んだ良い講演でした。

一般演題の第 1 席は、農医研・中村さんの「へき地山村における成人の難聴について」の発表でした。

通常は静寂な環境の利賀村にも、仕事の上で騒音にさらされた人が多く、男女ともに難聴者が多かったと報告されました。

騒音下の作業のさいには耳栓・耳覆いを装着すべきであるとも話されました。

第 2 席は農医研・大浦さんの「ネギの皮剥き機騒音の聴力に対する影響の検討」でした。

近年導入された農業機械の騒音が聴力に与える影響を、実験的に検討されたものですが、4000 Hz で一過性の聴力損失が認められたと報告されました。

座長の豊田先生から騒音難聴の定義などについて説明がありましたが、この種の実験は被験者の安全にも配慮が必要ではないかと思われました。

第 3 席「富山県における空中花粉飛散状況と患者発生の時間的関連性」は、富山医薬大の寺西先生が昨年実施された実態調査の御報告でしたが、スギ花粉飛散のピークを示した 3 月 19 日に、スギ花粉症患者の状況発生も、男女ともに最大だったと話されました。

これにたいして、座長の豊田先生は「空中花粉の状況予報」が可能になれば、花粉症に悩む患者にとって都合がよいと追加されました。

14 時 47 分から黒部温泉病院の渡辺先生が座長をされました。

第 4 席の発表は演者が病欠されたため、大浦さんが代演されました。「農薬散布作業者の

農薬暴露について」で、二人のボランティアが有機燐系農薬をマスクをしないで散布して、血中農薬量と尿中の代謝産物を経時的に調べたものでした。

体内に吸収された農薬の消長が良くわかって、座長の渡辺先生は「個人差があって興味深い」といわれましたが、越山先生は危険な実験ではないかと指摘されました。現在は新薬の治験の際にも被験者の安全確保が厳しく要求されていますから、今後は実験方法の再検討が望まれます。

第5席では豊田先生が「日帰り人間ドックにおけるスギ RAST 成績」について報告されました。

受診者499例のうちスギ RAST 陽性者は53例(10.6%)で、女性が多く、年齢では30歳代に最多を示したとあり、鼻症状のある人は無症状の人に比べて明らかに高率だったと話されました。

第6席も演者が変更になりましたが、福野町農協の大井さんたちが福野中部第二保育所の30名の子供たちとその家族を対象に「おやつ調べ」をされて、親がおやつをきちんと準備するなど食習慣のしっかりしている家庭と、間食も家族がばらばらにとっている家庭とでは、間食に食べる食品の種類にも違いがあるように話されました。

現在県下では食生活改善運動が進んでいますが、子供の間食については、虫歯予防の面でも注目されると思われます。

第7席の長谷田先生は、先生の奥様が購入された鱈の刺身に「アニサキス」とおもわれる虫体を発見され、その実物を供覧されました。

生で食べる食品には微生物ばかりでなく寄生虫の汚染にも注意が必要です。

15時40分、高岡病院の加藤院長先生が座長席につかれて、最後のセッションに入りました。

第8席滑川病院の小川先生は、「再受診者に

おける進行胃癌についての検討」として、過去11年間に発見された胃癌133例について検討され、とりわけ過去に検診を受けていながら進行胃癌と診断された15例について述べられました。

かつて沖中教授が御自身の誤診について言及されたことがあります。癌検診の精度管理上のきわめて重要な読影上の問題を、真摯に検討された先生のお仕事に感銘致しました。

現在高岡市におきましては、癌検診ことに胃癌検診の受診向上に務めておりますが、私は小川先生のお仕事を拝聴しまして、正に「百万の味方を得た」ような思いをいたしております。

越山先生のコメントにもありましたが、小川先生には今後も胃癌の検診事業について、御教示を戴けますようお願いを申し上げます。

続いて高岡総合検診センターの渋谷さんが「成人病検診における問診内容の検討・第2報」として塩分の摂取量状況と血圧の値の相関について報告されました。

この両者の間には関連性がないとのことでしたが、座長の加藤先生は「真実を問診できるように問診の在り方を検討したい」と追加されました。

第10席では、滑川総合検診センターの川口さんが「空腹時血糖値と耐糖能異常の関連について」発表され、検診における受診者の空腹時血糖値(FBS値)が、140mg/dl以上の群でほとんどが糖尿病型をしめすことが判ったと報告されました。

糖の負荷試験は健康相談などでは実施が困難ですので、私はこの結果を、保健センターにおける糖尿病相談の際の参考にさせて戴こうと思いました。

最後の演題は、高岡検診センターの米田さんが、人間ドックを受診された方々について肥満と疾病の関連を調査されて、肥満度20%以上の受診者は正常者にくらべ肝・循環器・

糖代謝・血清脂質の異常者が多いとして、肥満は病気と考えると対処すべきであると結論されました。

16時30分、越山先生が「本日の研究成果を明年度の秋田での農村医学会でぜひ発表して欲しい」とお話をさして、集会は終わりました。

私は今回も、地域の保健・医療の第一線を担当されている会員の皆様の、熱心な研究発表を拝聴しまして、たいへん感銘しました。

会場には県厚生連・高岡病院・富山医薬大などをはじめ県下から参加された多数の会員の方々が、熱心に聴いておられました。

今回は集団検診に関係した演題も多く、大変勉強になりました。

今後本集會がますます発展されますことをお祈りしまして欄筆します。

第9回集會をお世話下さいました農医研の事務局の御苦勞に深謝致します。